

6. ウマノズクサ（ウマノズクサ科ウマノズクサ属）

Aristolochia debilis Sieb. et Zucc.

2014年6月

無毛の夏緑性多年草つる植物で、全草粉白色を帯びます。茎は2mに達するものもあり、他の植物に絡まって生育します。適度に草刈がされた堤体や田んぼ畦畔、また、原野や藪のふちなどの日当たりのいいところを好みます。本州の関東以西から九州に分布します。堤体などでは開花状態になるまでに草刈が行われるため、開花しない個体が多く、有性繁殖は少なく、地下茎による無性繁殖で群落をつくります。花は葉腋から伸びた柄の先につき、独特のラッパ状の花を咲かせ、雌性先熟で自家受粉を妨げています。ポリネーターはショウジョウバエなどの小型のハエで、送受粉のためにハエの好む香りで引き寄せます。ウマノズクサはアリストロキア酸という毒性の強いアルカロイドを含み、間質性腎炎、尿路がんを引き起こすことが知られています。牛や馬も誤って捕食して中毒を起こした報告があります。ジャコウアゲハの食草として有名で、この毒物を体内に蓄積し、捕食されないよう身を守るといわれています。生育場所ではジャコウアゲハがよく見られます。

身近な類似種に六甲山系に生育するアリマウマノズクサ (*Aristolochia onoei* Franch. et Savat. ex koidz.) があります。木性のつる植物で、ホソバウマノズクサの別名のとおり、葉は広卵形～被針形で3裂し、側裂片は円くなる特徴があります。

また、たつの市や山崎町の林下にはオオバウマノズクサ (*Aristolochia kaempferi* Willd.) が生育しています。アリマウマノズクサ同様、木性のつる植物で葉は長さが8～15cmの円心形または3角状心形で、葉幅に変化がある種類です。幼葉はアリマウマノズクサによく似ているのがあり、まぎらわしいときがあります。



ウマノズクサの花



ジャコウアゲハの生虫と幼虫（夏色）



アリマウマノズクサ



オオバウマノズクサ（幼葉）